

# 2022年度 特定非営利活動に係る事業計画書

## 事業実施の方針

### ◆里山保全部門

#### \*管理場所グループ

根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。

- ・根戸城址 周辺道路の清掃、場内整備。巡視。落葉の堆肥化。枯れ枝の整理。間伐材の活用及び倒木の処理。下草刈り。森の劇場整備。隣接地への協力。立ち入りの管理等。
- ・ミカン山 除草。施肥。防虫。剪定。収穫。植樹等。
- ・ハス田 畦及び水中の除草。間引き。施肥。切り花募金。枯れ茎の除去。
- ・田んぼ 水管理。機器の点検。雑草の除去。耕耘等年間を通しての水田管理。排水路管理等。
- ・その他 新たな管理地となった浅野圃場整備、他部門との連携。

#### \*個別活動グループ

##### ・里山農教室部会

- ・有機生態系農業を学び研究し実践する場として開講する。
- ・受講生のなかから、里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。
- ・今年度は4チーム編成とする。農教室開始当初の人数は、大人部会115名、子ども部会34家族。

・統括部門のユーティリティチームは、昨年同様、圃場の耕耘、暗渠清掃、各チームの支援など、幅広く農教室を下支えする。

・子ども部会は子ども圃場（新圃場）・田圃で基本的には本体とは分離して作業を行うこととする。

##### ・特別コース部会

- ・今年度2022年度は、新会員3名が入会し、13名でスタートします。
- ・月1回の定例会議を実施します。
- ・栽培計画書、栽培報告書の作成と発表会の実施
- ・里芋品評会の実施と表彰
- 11月のそば祭りに合わせて実施します。
- ・バス見学会は、今年もコロナの影響により中止
- ・新圃場の利用と管理

今年度より特別コースの沼側よりの圃場を特別コースが利用、維持、管理することになりました。

##### ・ハーブ部会

昨年度同様、レモングラスの育成・乾燥・販売と、ニンニクの育成・発酵・販売を計画中。さらに、新人部員が増えたため、圃場を拡張して種々のハーブを植えなおす予定である。

##### ・養蜂部会

- ・日本みつ峰飼育の基本技術を習得することを目指す。
- ・チームリーダー制の下、全員参加の活動を目指す。
- ・会員に、はち蜜、蜜ろうクリームを潤沢に提供できるように努める。

##### ・竹教室部会

・入門コースの最終課題の筏底盛籠、蜘蛛の巣編籠の2作品を完成させます。

##### ・子ども部会

以下の活動を行う。

- ・子ども畑と子ども田んぼで作物づくり。
- ・根戸城址の森の整備と無煙炭化器による炭作り。
- ・子どもエリアの遊び場づくり。(可能な範囲でキャンプ)
- ・イベントの企画運営
- ・生き物マップづくり。

#### ・そば勉強会

- ・月1回の開催を計画するが、新型コロナウイルス感染状況によっては中止とする。

#### ・健康長寿部会

- ・パパイアの栽培を手始めとして、健康によい作物を作る。

#### ・小麦部会

- ・小麦を栽培し強力粉を作る。

### ◆遊休農地活用部門

#### \*遊休農地対応グループ

##### <景観作物栽培>

- ・今年度の栽培圃場は3か所増えて合計約61aで景観作物を栽培し、農地保全を図ると共に手賀沼周辺の景観と環境を守る活動を行う。
- ・ひまわり栽培(5月～8月)…船戸圃場、花和下圃場、浅野圃場の2区画
- ・菜の花栽培(10月～3月)…船戸圃場、花和下圃場、浅野圃場の2区画
- ・そば栽培(8月～10月)…浅野圃場の1区画
- ・公開イベントは船戸圃場で、7月の「ひまわり迷路とクイズに挑戦」、3月に「菜の花畑散策と頭の体操」をそれぞれ4日間開催する。  
なお、新型コロナウイルス感染状況によってはイベントを中止する。
- ・花和下圃場は雨水対策として高畝栽培で行う。
- ・浅野圃場は新たに利用権設定した圃場で、大きく分けて6区画ある。そのうち2区画(約35a)でひまわりと菜の花を栽培し、1区画(約8a)でそばと小麦を栽培、1区画(約8a)で健康長寿部会がパパイアなどを栽培、残りの2区画(約25a)は現状作物栽培には適さないため、当面除草管理を行う。
- ・宮前沼中間圃場は、当面除草管理を行い、景観作物の栽培が可能かどうか様子を見る。
- ・栽培をしたひまわりから種子を取り、搾油をしてひまわり油を得る。
- ・景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。

##### <田圃>

- ・宮前田圃は昨年以上の収穫を目指す。
- ・宮前沼田圃は西側のアート圃場を田圃に改良して稲作を行う。

#### \*新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、市・県と協力して農業者として自立できるよう援助する。

### ◆事務局部門

#### \*事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
- ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、遊農チームへの参加・イベントへの参加などを呼びかける。

- ・トラスト正会員、協力会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
- ・託された農地で、米をつくり、景観作物を栽培し、地域の方がたの信頼を勝ち取る。
- ・遊農チーム（GMT 6 5）と現物支給制を拡充・維持し、会員みずからが作ったものを消費することがそのまま里山保全につながる体制の確立を目指す。
- ・トラクターの公道走行時の保険など、必要な保険に加入し、安全管理、リスク管理に努める。
- ・農業機械の実習・講習をとおして、機械を安全に使い、効率的に作業ができるよう努める。
- ・新型コロナウイルスへの対応を的確に行い、クラスターの発生源にならないよう努める。同時に、引きこもりがちになる高齢者や子どもに活動の場を提供することにも努める。

### **交流グループ**

会員相互並びに一般市民との交流の場としてイベントを実施する。ただし田植えについては新型コロナウイルスの終焉がまだ見込めないので外部には公開しない。かかし祭り、稲刈りについてはできるだけ実施したい。飲食を伴う早苗饗、そば祭り、餅つき大会のイベントについては、理事会で定めた新型コロナウイルス対応方針に沿って、理事会での協議を踏まえて開催の可否を判断する。

トラストサロンを開催して、会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。

他団体との連携については、トラスト活動に支障のない範囲で積極的に行う。

## **◆総括計画**

### **・地元で生きる・地元を活かす**

手賀沼トラストの活動域、我孫子と柏の市境には、自由な時間をふんだんに持っている定年退職者、後継者がなく荒れていく田畑を嘆く農業者、子どもたちを自然に触れさせたいと考えている若いパパママがいる。

私たち手賀沼トラストは、子どもたちには土との触れ合い、豊かな森の保全活動を、定年退職者には里山農教室で野菜作りと仲間作りを提供し、さらにお百姓に替わって稲やヒマワリ・菜の花を育てて農地を保全する。子どもから老人まで、地元で汗をかき、地元で楽しむ、そして緑豊かな地元を創る、こんなスローガンを掲げて今年度もさらに前進したい。

### **・新型コロナウイルスに打ち克つ**

猛威をふるう新型コロナウイルスに最大限警戒しながらも、地域に生きる・地域を活かすNPOとして、コロナ禍に打ち克つ活動を展開する。